

令和5年度 静岡県公立高等学校入学者選抜

学力検査結果等の報告書

I	学力検査結果等の概況	・・・・・・・・	1
II	各教科及び作文の概況		
	国	語	・・・・・・・・ 5
	数	学	・・・・・・・・ 6
	英	語	・・・・・・・・ 7
	社	会	・・・・・・・・ 8
	理	科	・・・・・・・・ 9
	作	文	・・・・・・・・ 10

令和5年6月

静岡県教育委員会

I 学力検査結果等の概況

1 学力検査等の実施

一般選抜は、令和5年3月2日（木）及び3月3日（金）に、全日制の課程では90校（分校等も1校と数える。）、定時制の課程では20校（学年制17校、単位制3校）で実施した。学力検査は3月2日（木）に実施し、全日制の課程については、国語・数学・英語・社会・理科の5教科について行い、学年制による定時制の課程については、国語・数学・英語・社会・理科の5教科及び作文の中から、学校が必要な教科等を選択して行った。単位制による定時制の課程では、国語・数学・英語・社会・理科の5教科又は作文により実施した。

なお、一般選抜と同日に実施した特別選抜のうち、海外帰国生徒選抜は15校、長期欠席生徒選抜は2校、連携型選抜は3校、県外生徒特色選抜は2校において、一般選抜と同様に5教科の学力検査を実施した。外国人生徒選抜を実施した9校においては、日本語基礎力検査を実施した。

検査当日、病気その他やむを得ない理由によって検査を受けられなかった者に対する追検査は、3月9日（木）に実施した。さらに、再募集を3月22日（水）に実施し、全日制の課程並びに学年制及び単位制による定時制の課程において、作文又は小論文を学校が選択して行った。

なお、新型コロナウイルス感染症に係る追加検査は3月16日（木）に実施し、追加検査（二次）は3月22日（水）に設定したが、受検者はいなかった。

この報告書においては、3月2日（木）に実施した学力検査及び作文について報告する。

2 検査教科と検査時間

表1

教科名		国語	数学	英語	社会	理科
実施時刻	開始	9:05	10:10	11:15	12:55	14:00
	終了	9:55	11:00	12:05	13:45	14:50
検査時間		50分	50分	50分	50分	50分

※ 定時制の課程において作文を実施した学校では、国語と同一の時間に実施した。

3 学力検査及び作文問題の出題方針

学力検査問題は、次の方針に基づいて出題した。

5教科の検査問題は、中学校までの学習内容を踏まえた、基礎的・基本的なものとし、各教科の目標に即して、知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度を広く検査できるように出題した。

また、作文問題については、受検者の身近な問題を題材として5つの作文題を示し、各実施校がこの中から2～3題を選んで出題し、受検者はその中から1題を選んだ。

4 学力検査及び作文受検者数（追検査受検者を含む。）

表 2

	令和 5 年度	令和 4 年度
全日制の課程	19,146 人	19,116 人
学年制による定時制の課程	305 人	239 人
単位制による定時制の課程	413 人	439 人
合 計	19,864 人	19,794 人

5 学力検査結果の教科別平均点、標準偏差及び得点分布

(1) 各教科の検査結果の平均点（50 点満点）及び標準偏差

表 3

	令和 5 年度		令和 4 年度	
	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差
国 語	33.55	7.63	34.90	7.26
数 学	26.15	8.89	24.64	9.44
英 語	27.25	11.33	31.92	11.16
社 会	30.33	9.30	29.41	9.79
理 科	25.64	9.73	26.98	9.90
実施校数	90 校		92 校	

※ 分校等を 1 校と数える。全日制の課程のみ。

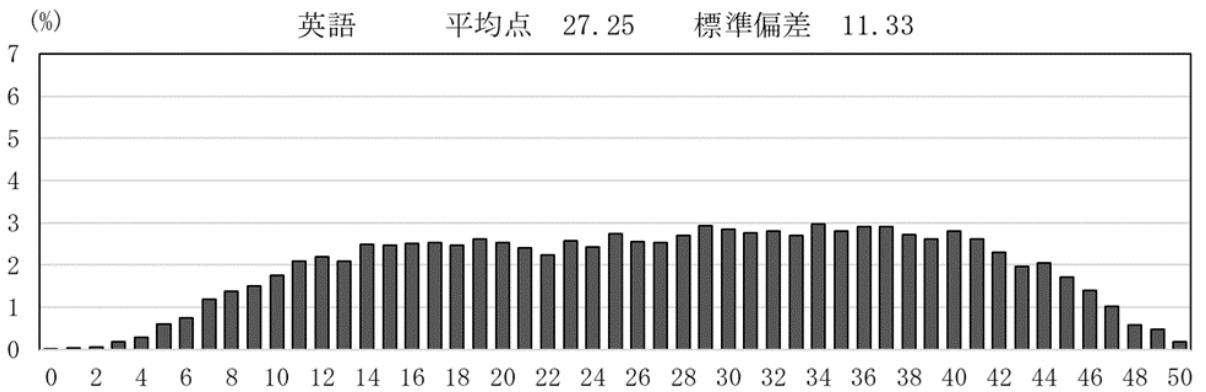
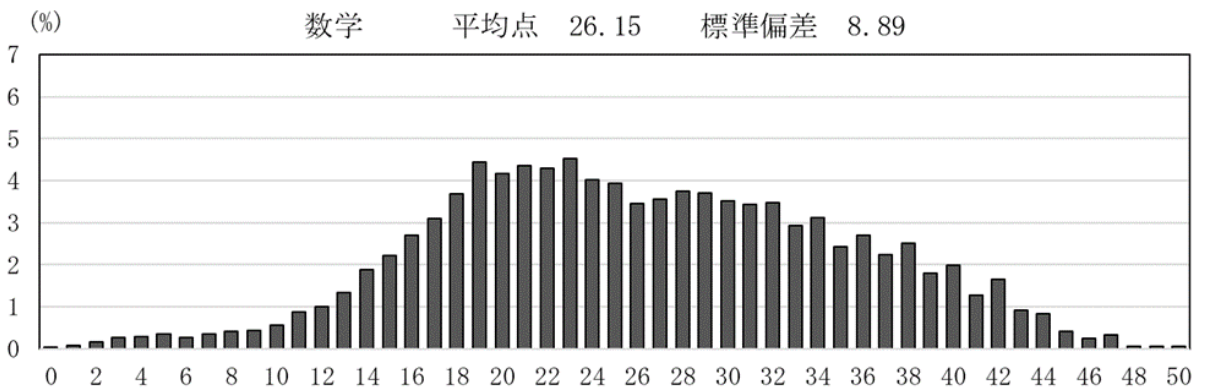
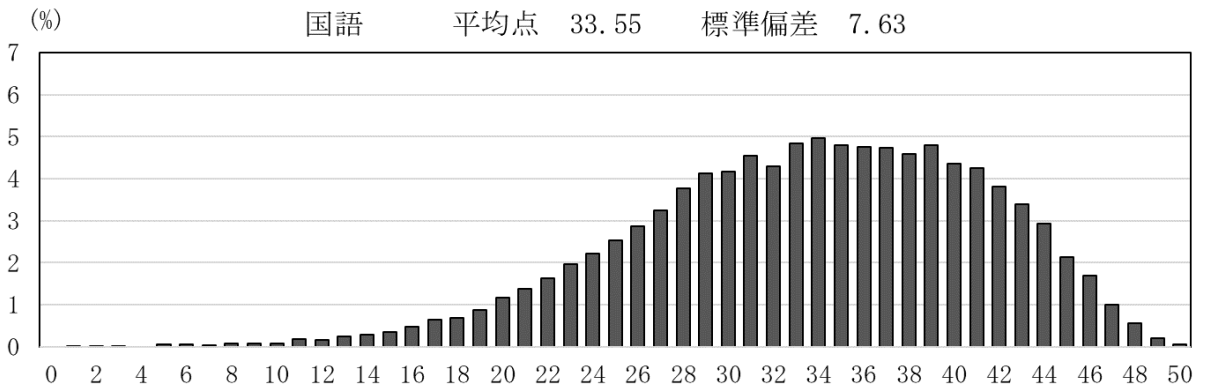
(2) 各教科の得点分布

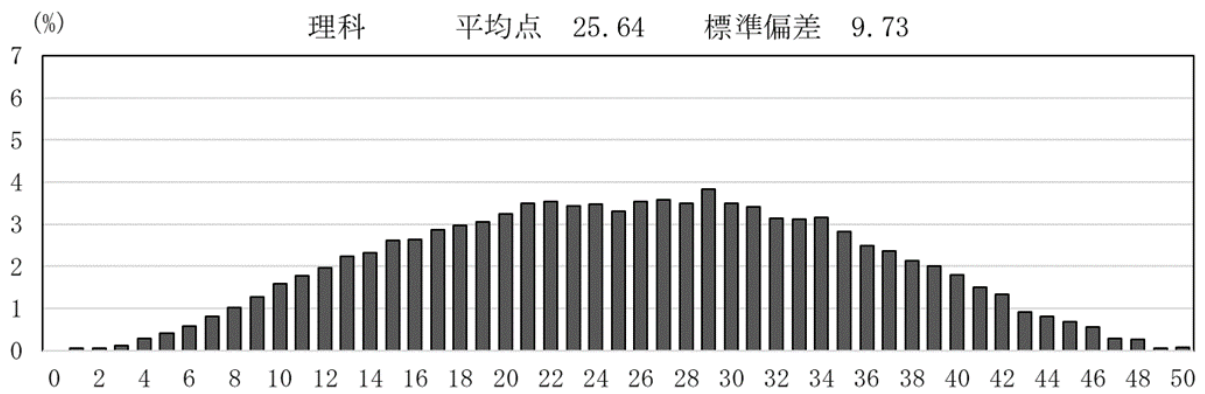
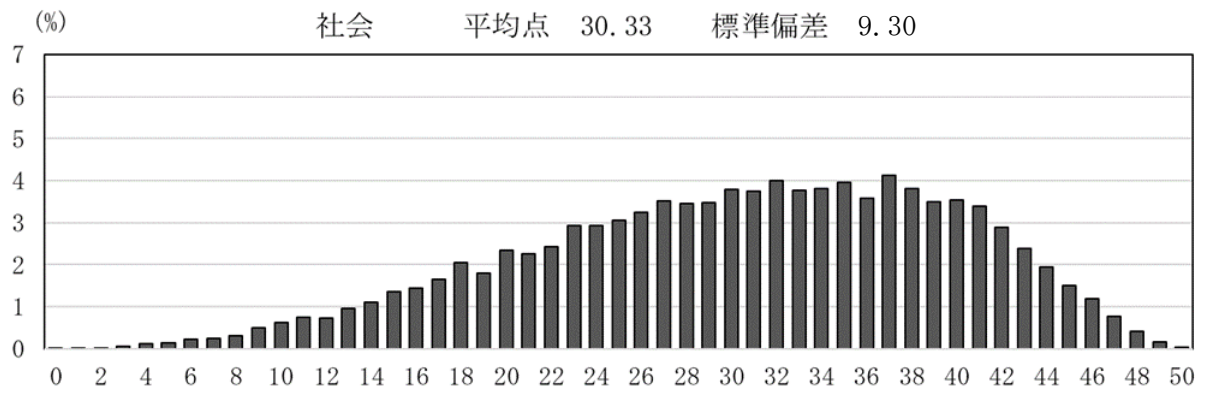
(%) 表 4

得 点	国 語		数 学		英 語		社 会		理 科	
0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1～5	0.1	0.1	1.1	1.5	1.2	0.4	0.3	0.5	0.9	0.6
6～10	0.3	0.2	2.0	4.3	6.6	2.7	1.9	2.7	5.3	4.2
11～15	1.2	0.8	7.3	10.0	11.3	6.7	4.9	6.6	10.9	9.4
16～20	3.8	2.9	18.1	18.5	12.6	9.1	9.3	10.8	14.8	13.7
21～25	9.7	7.6	21.1	21.9	12.4	10.9	13.6	14.2	17.3	16.4
26～30	18.2	13.9	18.0	17.7	13.6	12.4	17.5	16.1	17.9	17.6
31～35	23.4	21.7	15.4	12.5	14.1	13.9	19.3	17.5	15.6	16.3
36～40	23.2	28.6	11.2	7.4	14.0	15.5	18.5	18.0	10.8	12.6
41～45	16.5	20.7	5.1	4.4	10.6	17.7	12.1	11.7	5.3	7.1
46～49	3.5	3.5	0.7	1.3	3.5	9.9	2.5	2.0	1.2	2.1
50	0.1	0.0	0.1	0.4	0.2	0.7	0.0	0.0	0.1	0.1

※ 右列は令和 4 年度。全日制の課程のみ。

(3) 各教科の得点分布グラフ





6 各教科の小問別正答状況

全受検者の中から約 1/50 を抽出し、各教科の小問別正答状況を調査した。その結果は、「Ⅱ 各教科及び作文の概況」において示す。

国 語

1 出題のねらい

一では話の展開や登場人物の心情を、表現の仕方に注意して読み取ることができるかをみる。
 二では筆者の考えを文章の展開に即して的確に把握する力をみる。三では社会生活に必要な、言葉によって伝え合う力をみる。四では平易な古文を読んで、話の内容をとらえることができるかをみる。五では自分の考えを文章で適切に表現する力をみる。

2 解答の状況

設問番号	解 答 の 特 徴 と 誤 答 例		正答率
一	問一	㊤ 非常によくできている。	99.2
		㊦ 非常によくできている。	93.9
		㊧ よくできている。	89.1
	問二	よくできている。	76.2
	問三	誤答では、「校長先生の」などがみられる。	66.6
	問四	ユミが「サクラシール」を貼ることに決めた理由を的確にとらえることができていない解答が多い。	59.9
二	問一	㊤ よくできている。	90.1
		㊦ よくできている。	90.4
		㊧ 非常によくできている。	97.5
	問二	誤答では、イが多い。	56.5
	問三	よくできている。	73.3
	問四	非常によくできている。	97.2
三	問五	文章の展開に即して内容をとらえることができていない不十分な解答が多い。	33.2
	問六	誤答では、アが多い。	47.6
	問一	よくできている。	90.1
	問二	よくできている。	81.6
	問三	よくできている。	84.4
四	問四	よくできている。	76.6
	問五	陸上部員の活動する姿勢を、メモの内容を踏まえた適切な言葉で表現することができていない不十分な解答が多い。	62.2
	問一	非常によくできている。	96.5
	問二	誤答では、ウ、エが目立つ。	61.5
五	問三	九郎のよそおいの変化を的確にとらえることができていない不十分な解答が多い。	62.7
	問四	頼義の考えを的確にとらえることができていない解答が多い。	34.2
五	グラフから考えたことを、自分の言葉で述べようとする姿勢がみられる。身近なところにある事柄には触れているが、説得力を持つ文章となっていないものが多い。		54.4

数 学

1 出題のねらい

1と2では数と式、図形及び確率に関する基礎的な力を、3と4では身近な事象を数学的にとらえる力を、5と6では空間図形及び関数についての理解の程度を、7では平面図形について論理的に考察する力を、それぞれみることにねらいを置いた。出題に当たっては、数学的活動を通して、事象を数学的にとらえ、表現し、考察処理する過程をみるようにした。

2 解答の状況

設問番号	解 答 の 特 徴 と 誤 答 例		正答率	
1	(1)	ア	非常によくできている。	97.5
		イ	よくできている。	84.3
		ウ	よくできている。	86.6
		エ	非常によくできている。	93.2
	(2)		よくできている。	89.9
	(3)		よくできている。	85.7
2	(1)	点Aから辺OYに引く垂線の作図ができていないものが多い。	59.6	
	(2)	「逆」について正しく理解していないものが多い。	58.5	
	(3)	よくできている。	81.3	
3	(1)	よくできている。	78.9	
	(2)	誤答では、「32、33」などがみられる。	44.2	
4		数量関係の正しい立式ができていないものが多い。また、どのような数量を x や y で表しているのかを明記していないものも目立つ。	44.6	
5	(1)	非常によくできている。	97.5	
	(2)	誤答では、 $\frac{11}{4}\pi$ や 9π などがみられる。	52.0	
	(3)	正答率が低い。無答も多い。	0.5	
6	(1)	誤答では、4が目立つ。	70.8	
	(2)	誤答では、ウが多い。	41.4	
	(3)	正答率が低い。問題を解くのに必要な点の座標を正しく求められないための誤答が多い。無答も多い。	16.6	
7	(1)	三角形の相似条件「2組の角がそれぞれ等しい」において、 $\angle GBC = \angle FEC$ は説明されているが、もう1組の対応する角が等しい理由について、論理の飛躍しているものや説明の不十分なものが目立つ。	26.0	
	(2)	正答率が低い。目測で求めたと思われる3という誤答が目立つ。	3.8	

